

# 長畝ふるさと通信

【2016年11月号】

## ■ 平穏な田んぼ・・・

9月、10月と慌ただしく収穫を終え、11月は至って平穏な日々を送っておりました。アメリカの大統領が誰になったとか、韓国の大統領の支持率が最低だとか、福島沖に早朝津波が襲ってきたとか、東京で54年ぶりに11月に初雪が降ったとか・・・全く聞こえてこなかったように毎日、静かに夕日が沈んでいきました。



鉛色の空が続く毎日ですが、たまに澄み渡った青天の早朝は放射冷却で辺り一面霜が降り、氷の世界と化します。氷をまとった田んぼの周りの草花が日光を浴び、水蒸気が霧のように舞い上がって幻想的な風景を見せてくれます。

屋根の軒先に吊るされた「干し柿」は佐渡の冬の風物詩ですが、今では金具を使ったものが主流となりました。黄金色の干し柿はこれから寒風にさらされながらさらに糖度を上げ、「あめ色」に仕上がれば食べごろを迎えます。



## ■ 第11回 収穫感謝祭



11月26日(土)第11回目となる収穫感謝祭を開催しました。「今年はオール1等米でした」の挨拶に、一同「お〜っ」と歓喜の声。90歳の大先輩から未満児まで約70人が1年の成果と収穫の感謝に集いました。

宴の料理はもちろん、かあちゃん手作りの「大ごちそう」。朝早くから活性化センターの調理室は大賑わいで、これもひとつのお祭りになっております。「オレ達(佐渡のかあちゃんたちは皆、自分のことをオレと言います)がやれなくなったらどうするの?」とここ数年発破をかけられながらも、とにかく楽しそう・・・「死ぬまで元気でいてください」とごまかしながらも「生きがいを奪ってはいかん」と心の中でつぶやきます。



コンバインの体験試乗には未来の組合員たちが我先にと乗り込んで、これまた大盛況。第1回の収穫祭でコンバインに喜んで乗り込んだ少年たちはもう大人になったでしょうか。「組合で農業を」という声は聞こえてきませんが、いつかこの中から頼もしい後継者が出現してくれることでしょう。



10年間、作り続けた「百人鍋」もまだまだ現役です。これからもずっとこの祭りを盛り上げる最強のアイテムとして君臨し続けてもらいたいと思っています。10年間の作り手として(ただ材料切って、鍋にぶち込んで醤油で味付けするだけの極々シンプルな鍋ですが・・・)後継者を探さねば!



## ■ 29年産米も宜しくお願い致します。



JA米低温倉庫の一角に高々と積まれたわが社のお米。来年の10月までかけて売りさばっていくわけですが、どうか皆さんのお力添えをお願い致します。

**おかわりは自由です!**